

60周年に寄せて



藤井敏道*

プレストレストコンクリート工学会が設立60周年を迎えられたこと、そして日本のPC技術の発展と普及および国際技術交流への足跡を綴る60周年の記念誌が発刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

また、日頃よりPC建協活動の取組みにご理解、ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

貴学会は設立以降、わが国におけるPC技術の進歩向上を図られてこられました。これまでの貴学会の運営、事業に御尽力された歴代会長をはじめ役員ならびに関係各位に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

今回の寄稿にあたり、創刊号（1958年9月）にご掲載されておりました初代会長の吉田徳次郎先生の祝辞をあらためて拝読いたしました。当時は、まだコンクリートの物理的性質が理解されておらず、PC構造物についてもさまざまな不明点があったなか、当時の技術者は、試行錯誤を繰り返しながら幾多の課題を試験、研究により克服してきたことが綴られており、「この会誌はPC技術協会と盛衰をともにするものでありまして、会誌がふるわなければ協会も衰える運命にあらうと思います。そしてこのPC技術協会およびこの会誌が成功するか否かはPCの研究とその成果を実際に応用する技術とを全会員諸兄がお互いに知らせたり、学んだりしようとする全会員諸兄の御熱意と御尽力とによることでもあります。」と創世記の熱き想いが語られておりました。長年、PC技術の普及のために貴学会と両輪として歩んできたわれわれも、この想いをこれからも繋いで参ります。

さて、PC建協では、2017年7月に「新ビジョン2017次世代に届ける確かな技術、PC建協の未来への挑戦」を公表しました。貴学会、PC工事業協会とそれぞれの会員企業の活動により、市場対話、技術支援、生産支援、社会

への働きかけの4つの取組みを進めていきPC技術を広く一般社会へ普及すべく活動しております。なかでも技術支援の取組みの一環である「PC技術専門家派遣事業」では、貴学会と協働しコンクリート工学などの講座をもつ大学等へPC技術に精通した技術者を派遣して講義を行うもので、多くの学生にPC構造物への興味をもってもらえるきっかけとなっております。

建設業界では、喫緊の課題である生産性向上の推進については、「プレキャスト技術」と「ICTの活用」を2本柱とする生産性向上の方策「i-Bridge」を1つのパッケージとしてPC建協の市場対話活動として発注者との意見交換会の際にご提案しているところであります。これらのプレキャスト技術の活用に関しましても、かねてから貴学会とともにPCコンボ橋の普及や各日本高速道路会社での更新用プレキャストPC床版の採用など、さまざまにご協力いただいているところです。

われわれが全国各地で携わってきたPC構造物は、この60年間で著しく進展し、まさに良質な社会基盤整備には欠かせない技術として大きな役割を担っております。今後の社会基盤整備でも持続可能性をもった取組みのなかで適切な技術や研究が不可欠であります。まさに、貴学会が2017年5月に公表された「PCサステナビリティ宣言」は、時代のニーズであり、PC建協としても新ビジョンとともに推進していくべき提言であると共感するところであります。

さいごに貴学会の会員の皆様方におかれましては、なお一層のPC技術の研鑽に御尽力されますことを期待いたしますとともに、会員一同のご協力のもと、ますます発展されますことを祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

* Toshimichi FUJII：(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 会長
(株)ピーエス三菱 代表取締役社長